

# OfByForコラム 地域の地域による 地域の地域のための Something NEWS

第24回

## 再生可能エネルギー（風力発電）への転換に向けて

要である。それは、地域を  
活かし、国を

再生可能エネルギー（風力発電）への転換に向けて

要である。これも先進  
支えるOfByForとし  
ての取り組みである。

置している。これも先進  
支えるOfByForとし  
ての取り組みである。

▼日本の風力発電の黎明

岩手県盛岡市を訪ねた。久しぶりに学会発表をするためである。その学会は、日本技術史教育学会という小さな学会であるが、風力発電について長らく牽引してきた牛山泉氏が会長を務めている。牛山氏と筆者との出合いは20年も前で、「日本風力エネルギー協会」で活動していた時分である。

▼上海・河口の  
崇明島での開発

上海の長江の河口には、崇明島がある。面積は約1,225平方キロ、東西約80キロ、南北約15キロの細長い島である。2009年9月はじめに当地を訪ねた。島の東端、東灘に広大な東灘鳥類自然保護区があり、その近

それから2年後の20

筆者の観察では、バー

ドストライクは見られず、鳥たちは慣れ親しんでいるようであった。

▼中国の速さの原動力

エコアイランド構想は、崇明島では中国政府が英国政府とともに計画・遂行した。上海実業(集団)有限公司(SIIC)が英国・アラップ(Arup)社と組んで行ったもので、事業の覚書は当時の胡锦涛主席とブレア首相が臨席して2005年11月に調印され

一般社団法人 洗楓座  
一般社団法人 e f c o . j p  
代表理事 佐藤建吉

▼エネルギーシフトには  
マインドチェンジが必要

英国のアトキンス(A  
tkins)社は、中東  
のバーレーン王国首都マ  
ナマの世界貿易センター  
(BWT)のツインタ  
ワーをつなぐ3つのコリ  
ドールに3機の風車を設  
置している。これも先進  
支えるOfByForとし  
ての取り組みである。

置している。これも先進  
支えるOfByForとし  
ての取り組みである。

エネルギー学会に参加したことがあった。その学会の後、上海交通大学を訪ね研究打ち合せを行った。風力発電を国策として進めていた中国は、長足の進歩を遂げていた。その進展の速さで筆者が驚いた経験として、上海の長江の河口にある崇明島での風力開発がある。

崇明島の手前の子島には大型風車が24機、更に本島には30機の風車ができていた。湿地帯にはパ

た。東灘にエコシティを形成するコンセプトの下、活動的で、住みよく環境負荷のない未来都市を中国に創成することが目指されている。

風力発電による二酸化炭素削減は、英国の京都議定書の小規模CDM (Clean Development Mechanism) を適用しているようである。年間27000トンの二酸化炭素削減があるという。揚子江では平均風速が毎秒7メートルあり、風力賦存量も十分である。

こうして、後発の中国の急成長には驚く。国策として進めこの偉大さを感じる。

我が国も、時代を先取りしているが、その構造や普通に行っている先進国にならなければならぬ。そのため、政府や宮沢賢治や新渡戸稲造など大企業の投資先の転換とともに国民のマインドチェンジが必要は適地である。



写真1：東灘鳥類保護区の近くにある風車群

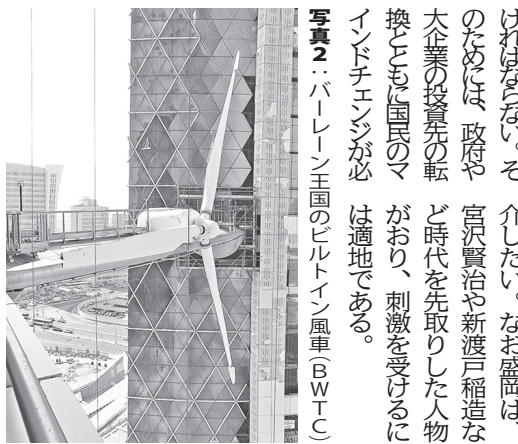


写真2：バーレーン王国のビルトイン風車(BWT)